

夢から覚めたら

ひとりごとが趣味で悪いか花篝
ばらばらになった花卉を取り戻す
声まずは肌に伝わる夏の夜
プリクラで塗りつぶされてしまう汗
しとしとと順番に昼寝夢覚め
昼ドラを見ながら昼寝する子ども
向日葵を贈ろうとして貼る切手
白だしを本棚に置く友の夏
朝顔やたしか右利きだった友
なめらかに爪を切りゆく明易し
星のひかりすべて遠くにある花火
白百合のぽとりと落ちる爆心地
泣き虫の卒業をする原爆忌
星が散るまた星が散るうつせみに
空想の動物といっしょに夜長
ねむるまで支笏湖の霧すみわたる
雪道にキヤリーケースの跡まだら
てのひらに雪解けてゆく別れの日
床が星ばかりでございます聖夜
煉炭とともだちごっこしてなさい